

日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2006 第59号

《目次》

校友会に思いを描いて	2	工学会（生物環境工学科）	7
校友会の皆様のご支援により母校の発展を	2	F T 会（食品科学工学科）	8
平成18年度総会・懇親会	3	拓友会（国際地域開発学科）	8
平成17年度校友会決算および		むつあい会（短期大学部農学科）	9
平成18年度校友会会計予算	3	生活環境学科校友会	
農学校友会（植物資源科学科）	4	（短期大学部生活環境学科）	9
紫友会（農芸化学科）	4	応用生物科学科校友会	
角笛会（獣医学科）	5	（応用生物科学科）	10
満喜葉会（動物資源科学科）	5	支部だより	10
いもづる会（食品経済学科）	6	校友だより	11
あすなろ会（森林資源科学科）	6	校友会事務局からのお願い	12
桜水会（海洋生物資源科学科）	7	校友会役員・事務局名簿	12

校友会に思いを描いて

日本大学生物資源科学部校友会

会 長 茂 澤 泉

私が会長に再選されて、早や 1 年が過ぎました。新しい執行部を組織して、まず校友会を取巻く諸問題に対応し、一步一步着実な歩みを進めてまいりました。特に本年は、学部執行部との懇談を開催し、相互に忌憚のない意見交換が出来ました。

ご承知の通り、日本大学校友会の再生によって、早や 4 年が経ちました。従来の校友会は卒業生のための親睦団体であり、その充実発展に専念して参りましたが新しい校友会再生の基盤は、学生諸兄姉を準会員と位置づけ正会員いわゆる先輩達と同様に会費の負担を



準会員支援金を贈呈（9 月 19 日）

していただき、正会員と一体となって校友会活動に参加するという方法に変わりました。

従って校友会は、準会員に対して奨学金制度・医療費補助制度・校友子女推薦制度・スポーツ振興等の他各種表彰制度等を後援しています。私はこれからの懸案事項に対処すべく、総務・財務・広報企画の 3 委員会について、本部校友会とのパイプの流れをよくするため、広報と企画をわけて企画委員会を創成し、また組織も極めて大事であるので組織委員会をスタートさせて 5 委員会とすることが必要と考えます。

また、学部校友会の 9 支部（秋田県・山形県・宮城県・福島県・山梨県・高知県・大阪府・日本大学校友会神奈川県支部生物資源科学部会・台湾支部）については、それぞれの支部の独自性を尊重し、平素の活動に注目しつつ単に記念事業等の後援に限定せず、随時活動状況に応じ後援してゆくよう各委員会に検討してもらいたいと思います。また、監査についても単に会計のみならず業務監査もお願いし、特に法令順守に基く諸策の徹底を計られたいとのご意見に配慮してまいります。

学部校友会事務局の機能充実促進を計るため、



新事務局長に飯塚先生、事務長に栢さん、局員に稗貫先生、小泉先生、栗原事務員の皆さんのご協力を得られ新発足いたしております。

先般、日本大学生物資源科学部執行部のお招きで、13 分会の会長が招待されました。

和やかな懇談が進むなかで、現下の学部がおかれている厳しい現状をお聞きし、校友会も一層の協力をして行こうと約束しました。

本年は些少ながらも学部校友会の総意により、経済的に困窮された準会員に対し支援もしております。学部執行部の希望で、各分会の現況と要望についてお聞きしたいとのことで、各分会長は、率直に意見具申し反響を得たと思います。またこのことは画期的であり、しかも中身の濃いものでした。

私の一貫して校友会に寄せる信条は、改革に情熱・気概・意欲を燃やし、絶えず校友会に新風を吹込むことが会長の使命であり、それが私自身日本大学に学び、先師先人からの貴重な教えを受け、広くは人としての大道を開いてくれた母校への恩返しと心に決めています。終わりに、校友各位の益々のご健勝とご活躍を御祈念申し上げます。

校友会の皆様のご支援により母校の発展を

日本大学生物資源科学部

学 部 長 酒 井 健 夫

生物資源科学部校友会の皆様方におかれては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。現在、生物資源科学部では、より整備され充実した教育研究環境、魅力あるキャンパス、親切的な教育の実践を目指して教職員が一丸となって努力しております。

これまでに、全学科に卒業研究・論文を必修とし、学科を横断して新入生にフィールド科学実習を開講すること等を盛込んだ新カリキュラムを本年 4 月から導入しました。19 年度入学試験においては I 期・II 期試験の募集人数の変更、II 期試験での東京会場の開設、AO 入試を導入し、20 年度入試からはセンター入試を導入する計画等の入学試験改善を行いました。また、短期大学に 19 年度から生物資源学科を設置する届出を行ないました。このように、今必要なことは今直ちに着手し、計画に従って実施すべきことは十分検討して適切に実行してまいります。どうか校友会の皆様も本学部、大学院生物資源科学研究科・獣医学研究科、短期大学湘南校舎の教育研究に関心を持っていただき、卒業後に校友会会員となる後輩学生諸君へのご支援をよろしく願っています。

文部科学省の平成 18 年度学校基本調査報告によれば、わが国における大学生の人数は 2,859,207 名で、平成 17 年度に比べて 6,000

名減少していますが、逆に大学数は 744 校で、17 年度に比べて 18 校増加し、16 年度より 35 校増加しております。このように少子化による大学就学人口の減少と規制緩和に基づく大学・学部の増設が並行して進む状況下において、国立大学は独立行政法人化による教育現場での自由化の拡大と交付金制度に支えられた恒常的収入の補償等がある一方で、私立大学の運営は主に学生諸君からの学納金によって賄われており、さらに文部科学省による大学間競争政策の導入など、私立大学を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。こうした中で付加価値の高い充実した教育指導サービスの実施はもとより、質の高い教育研究を支える財政基盤や組織基盤、特に管理運営機能の強化が一層求められています。

大学間の競争が激化する中で、本学部、大学院両研究科、短期大学が受験生や学生から選ばれ続けるためには、高い満足度を与える教育を提供することは勿論ですが、教育の理念と目標を見失わず、特に入学前の履修歴や学習能力が多岐にわたり入学の目的意識が多様化している学生諸君に、学部・短期大学では基礎学力と専門的な素養の養成と倫理観を備えた人間教育を実践し、大学院ではより高度で専門的な教育を行なう必要があります。



大学は人材育成の場であり、我々は知識と技術を有し、体験豊富で実行力がありかつ教養と倫理観を持った人材を養成することが求められています。すなわち、日本大学の建学の精神である自主創造を実践し、学生自らが勉学する目的と自らを磨き上げる気持を持たせることが出来る教育研究環境の整備、親切的な教育が出来るキャンパス、質の高い進路指導が出来るキャンパスを目指してまいります。

科学技術創造立国を目指すわが国は、緊縮財政の下でも科学技術に関連する予算は例外的に増加し続け、特に、生命科学、情報科学、ナノテクノロジー、環境科学の 4 分野は将来性のある重要な分野であると位置付けています。これらの分野は、本学部・大学院両研究科・短期大学の教育研究の目的と一致するので、わが国が求めている若き人材をわがキャンパスから輩出できる大きなチャンスと期待されます。

そのためには、日本大学の中で一番を目指すキャンパスとして、他大学から目標にされるキャンパスとして発展しなければなりません。我々教職員は、学生諸君の進むべき方向と社会の役割を理解し、教育環境の現状と将来を把握し、勇気を持って適切に教育改革と改善を進める所存であります。重ねて校友会の皆様のご協力とご支援をよろしく願いたします。

平成18年度総会・懇親会開催

7月8日(土)東京・赤坂プリンスホテルに於いて学部校友会総会・懇親会が開催された。

総会は新館五色2階「黄雲」の間で15時より、村山進副会長(いもづる会会長)の開会の辞で始まった。茂澤晃会長(紫友会会長)は「校友会活動への協力、支援に対する感謝。世良田事務局長、千野事務局員の退任と、後任に飯塚事務局長、栢事務局長、小泉事務局員を任命した事務局人事の報告。準会員対応を加味した活動計画案を組んだこと。今後の活動に当たって専門委員会のあり方を検討したい。」と挨拶で述べた。

議長に楠元守会長代行(農学校友会会長)を選出、議事録署名委員に鈴木勝春副会長(むつあい会会長)を選任し議案審議に移った。

①17年度事業経過報告に先立ち総務、財務、広報・企画3専門委員長より活動概要の口頭報告が行われた。事務局長より議案書に添った説明がなされた。「支部支援の具体的実施」を求める要望意見がだされたが、報告事項は承認された。②17年度決算報告は事務局長より簡潔に説明があった。③17年度監査報告は千田監事(いもづる会)が行い、決算報告と一括承認された。尚、監事より「準会員に対する配慮と法令順守の姿勢で活動



応援指揮振りを交えての校歌斉唱 吉田良之副会長(桜水会会長)

する」意見が述べられた。④18年度事業計画案では「箱根駅伝の推進」を明記することの説明があり、承認された。⑤18年度予算案では支出科目の変更を事務局長が説明した。総会費、箱根駅伝対応費の新設と、個人情報保護法による名簿発行の具体的計画案が無く、名簿積立金を削除することを確認し、承認された。⑥校友会会則一部改正は、事務局長より説明があり、字句の訂正、追加が承認された。⑦その他案件を議場に問うたが提案無く、議事終了した。酒川和男副会長(工学会会長)の開会の辞で、15時50分総会は終了した。

尚、総会には90余名の申込みがあったが、81名の出席だった。

懇親会は16時30分より、会場を新館五色1階「新緑」の間に移し開催された。



司会進行を内田駿一副会長(満喜葉会会長)が行った。中川秀樹副会長(角笛会会長)の開会の辞で開会した。校歌斉唱は、吉田良之副会長(桜水会会長)の指揮、室内楽の伴奏で声高らかに歌った。茂澤会長挨拶のあと、来賓の方々紹介がされた。中嶋総長・理事長先生、田中校友会会長先生、酒井生物資源科学部学部長先生よりご祝辞をいただいた。昭和17年卒業の近藤良三郎氏(拓友会)による乾杯の

音頭の後、懇談にはいった。南は高知、北は山形・宮城から関東周辺の112名の会員が参加した。来賓、招待者の出席は59名であった。室内楽演奏の中、和やかに、学生時代に戻り、旧交を温める懇談の輪が沢山出来た。中締めには再度、吉田良之副会長が登壇、指揮のもと、学生時代を思い出し応援歌を歌った。関村具由副会長(FI会会長)が拍子木を鳴らし3本締めを、最後に内田俊太郎副会長(拓友会会長)の開会の辞で18時10分、再会を約し散会した。出口では、食品加工室製の肉製品が手土産として配布された。

総会後、校友会事務局には吉田副会長の応援指揮振りに対する賞賛の電話を多数頂いた。

平成17年度校友会会計決算および平成18年度校友会会計予算

平成17年度日本大学生物資源科学部校友会会計決算

自. 平成17年4月1日 至. 平成18年3月31日

会 長 茂 澤 晃
事務局 長 飯 塚 統

(収入の部)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
1. 前年度繰越金	5,239,130	5,239,130	0	
2. 会 費	33,800,000	33,711,200	88,800	
(1) 準会員還付金	32,400,000	32,316,000	84,000	@6,000×5,386本部より還付
(2) 旧準会員入金金	1,160,000	1,160,000	0	@20,000×58
(3) 正会員還付金	240,000	235,200	4,800	@2,400×98本部より還付
3. 会費会費・税金	1,650,000	1,405,000	245,000	総会・懇親会・幹事会・税金
4. 積 金 利 子	1,000	78	922	
5. 雑 収 入	79,870	575,187	△495,317	
収入合計	40,770,000	40,930,595	△160,595	
(支出の部)				
科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
1. 分会交付金	16,309,000	16,309,000	0	13分会
(1) 準 会 員	15,729,000	15,729,000	0	@3,000×(1,894+1,707+1,712)
(2) 旧 準 会 員	580,000	580,000	0	@10,000×58
2. 経 常 費	12,220,000	10,768,269	1,451,731	
(1) 人 件 費	3,000,000	2,148,000	852,000	事務局手当・アルバイト代
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学生物資源科学部本部
(3) 事務局運営費	800,000	386,633	213,365	会報発行補助
(4) 通 信 費	2,600,000	2,420,080	179,920	総会・懇親会・幹事会
(5) 会 合 費	3,300,000	3,410,894	△80,894	分会・支部・他学部等税金
(6) 交 際 費	800,000	644,590	155,410	分会・支部・他学部等税金
(7) 交 通 費	1,200,000	1,088,050	111,950	支部間交通費・アルバイト交通費
3. 事 業 費	8,300,000	6,331,264	1,968,736	
(1) 名簿積立金	0	0	0	
(2) 会報作成費	1,600,000	1,258,110	341,890	第58号印刷代・HP作成費
(3) 広報委員会運営費	100,000	54,666	45,334	委員会・会報編集会費
(4) 総務委員会運営費	100,000	26,513	73,487	委員会・会報編集会費
(5) 財務委員会運営費	100,000	32,975	67,025	委員会・会報編集会費
(6) 記念事業費	200,000	200,000	0	PT会・山梨県支部
(7) 名簿作成準備費	100,000	0	100,000	ソフト代・入力代
(8) 準会員対応費	3,000,000	1,729,000	1,271,000	学部祭・体育祭補助金
(9) 会長賞記念品	100,000	70,000	30,000	
(10) 基金積立金	3,000,000	3,000,000	0	
4. 予 備 費	3,941,000	2,145,109	1,795,891	功労金・箱根駅伝
当年支出合計	40,770,000	35,553,642	5,216,358	
5. 次年度繰越金	0	5,376,953	△5,376,953	
支出合計	40,770,000	40,930,595	△160,595	
(積立金)				
科 目	平成17年度	平成18年度	差 異	摘 要
名 簿 積 立 金	4,979,351	4,979,351	256	三菱東京UFJ銀行・定期・利子
基 金 積 立 金	13,054,973	10,054,212	3,000,761	三井住友銀行・定期・利子

平成18年度の校友会予算の変更は次のようになりました。

- 1) 会費には総会費が含まれていましたが分離独立させ事業費の中に加えました。
- 2) 会報作成費をHP作成費も含めて広報費に変更しました。
- 3) 個人情報保護法により名簿発行が厳しくなったため名簿積立金を削除しました。
- 4) 名簿作成準備費が名簿管理費に変更しました。
- 5) 活動計画に箱根駅伝の推進が明記されましたので予算を具体化しました。

平成18年度日本大学生物資源科学部校友会会計予算(案)

自. 平成18年4月1日 至. 平成19年3月31日

会 長 茂 澤 晃
事務局 長 飯 塚 統

(収入の部)				
科 目	平成18年度	平成17年度	差異増減△	摘 要
1. 前年度繰越金	5,376,953	5,239,130	137,823	
2. 会 費	41,840,000	33,800,000	8,040,000	
(1) 準会員還付金	41,100,000	32,400,000	8,700,000	@6,000×6,850本部還付 学部・短大生6,000、大学院250
(2) 旧準会員入金金	500,000	1,160,000	△660,000	@20,000×25
(3) 正会員還付金	240,000	240,000	0	@2,400×100本部校友より還付
3. 会費会費・税金	1,450,000	1,650,000	△200,000	総会・懇親会・幹事会・税金
4. 積 金 利 子	100	1,000	△900	
5. 雑 収 入	947	79,870	△78,923	
収入合計	48,668,000	40,770,000	7,898,000	
(支出の部)				
科 目	平成18年度	平成17年度	差異増減△	摘 要
1. 分会交付金	20,842,000	16,309,000	4,533,000	13分会
(1) 準 会 員	20,592,000	15,729,000	4,863,000	@3,000×(1,899+1,680+1,689)
(2) 旧 準 会 員	250,000	580,000	△330,000	@10,000×25
2. 経 常 費	10,220,000	12,220,000	△2,000,000	
(1) 人 件 費	3,100,000	3,000,000	100,000	事務局手当・手当
(2) 本部分担金	470,000	470,000	0	日本大学生物資源科学部本部
(3) 事務局運営費	800,000	800,000	0	コーポレート代
(4) 通 信 費	2,600,000	2,600,000	0	会報発行補助
(5) 会 合 費	1,000,000	3,300,000	△2,300,000	幹事会
(6) 交 際 費	800,000	800,000	0	分会・支部・他学部等税金
(7) 交 通 費	1,500,000	1,200,000	300,000	支部間交通費・事務局交通費
3. 事 業 費	14,800,000	8,300,000	6,500,000	
(1) 総 会 費	2,500,000	0	2,500,000	総会・懇親会開催費
(2) 広 報 費	2,200,000	1,600,000	600,000	会報・HP作成費
(3) 広報委員会運営費	100,000	100,000	0	委員会・会報編集会費
(4) 総務委員会運営費	100,000	100,000	0	委員会・会報編集会費
(5) 財務委員会運営費	100,000	100,000	0	委員会・会報編集会費
(6) 記念事業費	200,000	200,000	0	ソフト代・入力代
(7) 名簿管理費	100,000	100,000	0	分会・支部・他学部等税金
(8) 準会員対応費	4,500,000	3,000,000	1,500,000	学部祭・体育祭・表彰金
(9) 会長賞記念品	500,000	100,000	400,000	校友会会長・表彰記念品
(10) 基金積立金	500,000	0	500,000	
(11) 基金積立金	4,000,000	3,000,000	1,000,000	60周年記念事業費
4. 予 備 費	2,756,000	3,941,000	△1,185,000	
支出合計	48,668,000	40,770,000	7,898,000	
(積立金)				
科 目	平成18年度	平成17年度	差 異	摘 要
名 簿 積 立 金	4,979,351	4,979,351	0	三菱東京UFJ銀行・定期・利子
基 金 積 立 金	17,054,973	13,054,973	4,000,000	三井住友銀行・定期・利子

農 学 校 友 会

◇植物資源科学科◇

連絡先 作物学研究室
0466-84-3502 事務局長 藤井 秀昭
E-mail fu.jak@brs.nhon-u.ac.jp

平成 18 年度農学校友会 総会・懇親会開催



平成 18 年 5 月 13 日（土）午後 1 時から湘南キャンパス博物館棟第 1 会議室において平成 18 年度総会が開催されました。楠元会長の挨拶の後、平成 17 年度事業報告、会計決算報告、会計監査報告があり、承認されました。続いて、平成 18 年度事業計画案、予算案が審議され、原案どおり承認されました。また、村上新太郎氏（29 期）が監査役に選出されました。かねてから募集していましたが、農学校友会ロゴマークとして稲川豪氏（31 期）の作品が選定されました。総会の後、多数の来賓と会員が出席した懇親会が食堂 3 階 NUBS ホールで盛大に行われました。本年度から準会員であ



新ロゴマーク

る現役学生からも幹事を選出することになり、各学年 2 名の学生が推薦されました。

学科行事への援助

例年にならい、新入生歓迎会、藤桜祭、収穫祭、卒業謝恩会に対し補助金を提供しました。また、卒業生全員に記念品を贈呈しました。今年度は、スポーツフェスタ開催に合わせ、新しく決まった校友会ロゴが印刷された T-シャツを贈りました。新入生、学科の研修を受けた台湾の学生達に配られました。

植物資源科学科の近況

〔卒業・新入学生〕

昨年度は 146 名の学生が卒業し、社会に巣立って行きました。4 月には新入生 163 名（男子：87 名、女子 76 名）を迎え、本年度は総数 612 名の学生が在籍しています。18 年度入学生は新しいカリキュラムに基づいた教育が実施されます。新入生オリエンテーションとして 4 月 17 日（月）に鶴沼海岸で地引き網大会が行われました。今年は水温が低く大漁とは言えませんが、学科教員といっしょに楽しい時間を過ごしました。5 月 27 日（土）には学部運動会スポーツフェスタ 2006 が開催されました。あいにくの雨天のため体育館で実施されました。

〔特別講義〕

4 年次開講の特別講義には、毎年農学校友会の諸先輩にも講師をお願いしております。本年度は、剣持伊佐男（果樹蔬菜園芸学研究室）、村上博美（遺伝育種学研究室）の両氏にそれぞれご活躍の分野の解説をしていただきました。

〔海外研修受け入れ〕

国立中興大学（台湾）の学生 20 名が参加した植物資源科学研修が 7 月 2 日～8 日の 7 日間にわたり実施されました。学科教員による講義、演習、実習が行われ、全員に修了証が授与されました。この間、台湾の学生と学科学生間の交流も盛んに行われました。

〔人事〕

4 月から応用昆虫学研究室助手として畠山吉則さんが着任されました。畠山先生は本学大学院農学研究科博士課程修了後、蚕糸・昆虫農業技術研究所、農業生物資源研究所、埼玉県産業技術総合研究所等で昆虫病原体の研究を行ってきました。



畠山吉則 助手

平成 18 年度の学科スタッフは以下のとおりの構成です。作物学研究室：石井龍一教授、藤井秀昭助教授、磯部勝孝助教授；花卉園芸学研究室：百瀬博文専任講師、窪田聡専任講師；果樹・蔬菜園芸学研究室：井上弘明教授、立石亮専任講師；遺伝育種学研究室：池橋宏教授、野村和成教授、穴戸理恵子専任講師；植物病理学研究室：前田学憲教授、井村喜之助手；応用昆虫学研究室：岩野秀俊教授、畠山吉則助手；造園学研究室：吉田博宣教授、葉山嘉一助教授；緑地・環境計画学研究室：勝野武彦教授、藤崎健一郎専任講師。

永年にとわたり学科のためにご尽力いただいた米田和夫教授が本年 3 月末日をもって退職されました。（野村 和成）

紫 友 会

◇農芸化学科◇

連絡先 土壌学研究室
0466-84-3953 事務局長 隅田 裕明

平成 17 年度紫友会事業報告

平成 17 年 7 月 16 日湘南校舎において平成 17 年度第 1 回理事会が開催されました。理事会では平成 16 年度事業報告（50 周年記念事業報告）決算報告、監査報告、理事の改選等の審議がなされ承認されました。また平成 17 年度の事業計画、予算案が決定されました。

平成 18 年度紫友会総会・懇親会

平成 18 年 10 月 27 日（金）メルパルク横浜（横浜市、中区）にて 18 時から平成 18 年度総会・懇親会を開催することになりましたのでご案内申し上げます。総会では平成 16 年度、17 年度事業報告、決算報告、監査報告および平成 18 年度事業計画、予算案、会則変更等ご審議いただく予定になります。多くの校友の皆様のご出席をお待ちしております。

平成 18 年度第 13 回紫友会 奨学生決定

紫友会 40 周年記念事業の一環として発足した紫友会奨学生の第 13 回生 9 名が、同奨学生選考委員会（有賀豊彦委員長）により厳正に選考され下記のように決定いたしました。2 年次 加藤一路、嶋村友里、長沼幸宏 3 年次 小西紀子、佐藤優美、藤井千尋 4 年次 奥山可奈子、久光あゆみ、平山真緒（敬称略）

農芸化学科の近況

農芸化学科は本年 4 月に新入生 158 名（男子：86 名、女子 72 名）を迎え、総計 624 名（男子：317 名、女子：307 名）の学生が在籍しております。学部次長に徳山龍明教授が就任され活躍されております。学科主任に有賀豊彦教授、生物資源科学研究科生物資源利用科学専攻主任に奥忠武教授が就任されております。

春見隆文教授（酵素科学研究室）はグルコースイソメラーゼの研究、エリスリトール生産技術の開発を中心とした「微生物・酵素を利用した新規糖質甘味料の製造技術」の研究業績に対して財団法人日本農業研究所より平成 17 年度日本農業研究所賞を授与されました。先生の益々のご活躍が期待されます。

〔人事〕

河内隆先生（生物有機化学研究室・専任講師）は本年 3 月末をもって退職されました。ご苦労をねぎらうとともに、ご多幸をお祈りいたします。

本年 4 月 1 日に中川達功助手（微生物学研究室）が独立行政法人 製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジー本部より着任されました。先生の益々のご活躍が期待されます。

昨年退職されました実験準備室松下聡美助手の後任として、本年 3 月に本学食品科学工



中川達功 助手

学科を卒業された坂内茉莉副手が採用され活躍されております。

紫友会事務局より

校友会活動の一環として、紫友会杯研究室対抗ソフトボール大会が平成 17 年 9 月に開催され土壌学研究室が優勝しました。



坂内茉莉 副手



表彰式の後、学生教職員、紫友会会長、副会長の方々と交えて懇親会が開催されました。



また、平成 18 年 3 月に開催されました平成 18 年農芸化学科卒業生謝恩会に紫友会会長、副会長の方々が招待され、卒業生の方々と広く交流を深めました。（荻原 淳）

角 笛 会

◇獣医学科◇

連絡先 獣医公衆衛生学研究室
0466-84-3386 事務局長 丸山 総一
E-mail tsuno-2@brs.nhon-u.ac.jp

平成 18 年度角笛会総会開催

平成 18 年 6 月 3 日（土）、午後 14 時 10 分から日本大学湘南校舎第 4 講義室で、平成 18 年度の角笛会総会が開催されました。昨年度と同様に、午前中は第 44 回日本大学獣医学会、午後からは角笛会という合同開催のスタイルでした。角笛会の幹事会、総会では先ず事務局より提出された平成 17 年度の事業報告、会計報告が、山村穂積監事の監査報告の後、承認されました。続いて平成 18 年度事業計画案、同予算案が審議され、承認、成立致しました。平成 18-19 年の新役員候補者は前期と同様（会長・中川秀樹、副会長・岩田穎三、田中茂男、長尾壮七）で、数名の常任幹事の変更がありました。また、東北海道支部（会員数 65 名、会長：川崎信由 S36 年卒）が新たに発足・承認されました。本年度の ANMEC（日本大学動物病院）支援基金（30 万円）は、坂井先生（内科学）の「Gene Chip」による肝炎発生犬における遺伝子発現の網羅的解析」に授与されました。

新支部長の就任に伴う幹事候補と今年度卒業のクラス幹事井上快氏、中島裕子氏がそれぞれ承認されました。総会終了後、今年の角笛会功労者 8 名に記念品目録とともに表彰状が授与されました。

また、午後 4 時 30 分から本館ガレリア階のステヒロにて催された懇親会には、茂澤 晃校

友会長をはじめ同僚校友会の来賓の方々、獣医学科教員を含め約 70 名に参会いただきました。懇親会は和やかな雰囲気の中に進行し、会場のあちらこちらで談笑の輪ができていました。

獣医学科の近況

【新 9 号館竣工】

本年度に新 9 号館が竣工いたします（写真 18 年 10 月予定）。新 9 号館には臨床系 5 研究



室（獣医外科学、獣医内科学、獣医臨床繁殖学、獣医放射線学、獣医臨床病理学）ならびに実験室が入る予定で、また、完成時には念願の外科学実習と内科学実習が同時進行することが可能となります。

【獣医師国家試験】

第 57 回獣医師国家試験には、日本大学獣医学科からは 162 名が受験し、153 名が合格しました。合格率は 94.44% で合格者数では全国（全国公立私立大 16 校を含めて）第 1 位、合格率では全国第 2 位（私立大学では第 1 位）でした。獣医学科ではここ数年、年 4 回の国家試験模試と試験後の解説ならびに国家試験に対応した授業の充実など積極的な努力を行ってまいりました。今回の結果は受験生ならびに教員の熱意が実を結んだものと信じています。

【表彰 受賞】

平成 17 年度卒業生のうち優等賞が中嶋眞弓さん、

学部長賞が丸山総一教授（対象：日本獣医学会賞の受賞）、伊藤美絵子さん、秋葉由紀さん、日本獣医師会会長賞が紫村真佐子さん、角笛会会長賞が渡邊彩子さん・井上奈々さんにそれぞれ授与されました。

【博士 獣医学 学位取得者】

課程博士：兼清 優氏、坂入 旭氏、平井明香氏、庄司洋子氏、安井 禎氏

論文博士：斎藤久美子氏
山本明彦氏

【退職】

佐々木栄英研究所教授（獣医内科学）、椎橋孝専任講師（医動物学）が退職されました。

【人事・昇格】

大場茂夫専任講師が総合臨床獣医学研究室に、鯉江 洋専任講師と坂井 学助手が獣医内科学研究室にそれぞれ異動しました。

【新任】

上地正実助教授（獣医内科学）、大滝忠利専任講師（獣医臨床繁殖学）、安井 禎助手（獣医解剖学）、滝山直昭助手（獣医内科学）、丸山治彦助手（獣医臨床病理学）、加藤亜香根副手（学理事務室）がそれぞれ着任しました。

（鯉江 洋）



上地 正実 助教授



大滝 忠利 専任講師



安井 禎 助手



滝山 直昭 助手



丸山 治彦 助手



加藤 亜香根 副手

満 喜 葉 会

◇動物資源科学科◇

連絡先 草地学研究室
0466-84-3652 事務局長 丹羽 美次
E-mail niv@a@brs.nhon-u.ac.jp

平成 18 年度 満喜葉会活動報告

【満喜葉会役員会、新入生歓迎会の開催】

本年度の満喜葉会役員会は、平成 18 年 5 月 27 日（土）午後 2 時より日本大学生物資源科学部資料館 2F 第 1 会議室において開催されました。役員会は、内田駿一会長、ならびに丹羽美次事務局長の挨拶の後、会則に伴い内田会長を議長として議事に移り、平成 17 年度事業報告ならびに決算報告が事務局よりなされ承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。続いて、平成 18 年度の事業計画ならびに予算案が事務局より提案され、審議の後、承認されました。また、来年に予定されている満喜葉会 60 周年記念事業の準備委員会（平成 18 年 5 月 13 日学部 1 号館第 6 会議室にて第 2 回会議を開催）からの報告、準会員に対する対応強化に向けての様々な意見交換がなされました。

役員会閉会の後、午後 4 時より場所を食堂棟に移し、恒例の動物資源科学科新入生歓迎会が、学科・満喜葉会の協賛で、学科学術研究部の協力のもと盛大に行われました。

学科の近況

【卒業生、新入生】

平成 17 年度は、136 名（男子 42 名、女子 94 名）が卒業し、新たに満喜葉会正会員の仲間入りをしました。また、本年度は、143 名（男子 57 名、女子 86 名）の新入生が動物資源科学科に入学しました。例年よりは女子の比率が多少下がりましたが、今年度も学部の中で最も女子学生の多い学科となっています。

【昇格】

平成 18 年 4 月 1 日付けで、宮原見義助教授（畜産食品科学研究室）が教授に昇格されました。

【6 号館の研究室再配置について】

湘南キャンパス整備計画の一環として、昭和 57 年から学科所属研究室が配置されていた 6 号館の全面的な改装、それに伴う研



第一動物センター飼育室（マウス飼育室）

究室の再配置が行なわれます。予定としては、今年 12 月に仮研究スペースへの移動、改装工事、備品等の設置の後、来年 7 月から 8 月にかけて新研究室への移動、となっています。現在 6 号館に配置されていた獣医学科臨床系研究室が旧 9 号館跡地に新設される建物への移動があるため、新 6 号館は畜産食品科学研究室（現在はミルクプラントに配置）を含めた動物資源科学科全研究室と獣医学科基礎系研究室の配置となります。当学科の研究室占有スペースとしては、4 階全フロアと 3 階フロア（一部獣医学科研究室が配置）が当てられており、現在、新研究室、学生実習室、学科共通演習室等の設計を行っている段階です。新研究室は、現在の研究室スペースより大幅に拡張され、また、昨年の会報でお知らせした「第一動物センター」（写真）の開設とともに研究面積、設備がさらに充実されます。今後は、更なる研究・教育活動の活性化が期待されます。

（山室 裕）



第一動物センター
行動解析室
（受動的回避行動
解析装置）

いもづる会

◇食品経済学科◇

連絡先 食品産業構造研究室
0466-84-3414 事務局長 大矢 祐治
E-mail ooya@brs.nihon-u.ac.jp

平成18年度幹事会 懇親会を開催

平成18年度の幹事会・懇親会が6月3日(土)、横浜駅前の崎陽軒本店において開催されました。幹事会では平成17年度の活動報告、会計報告と、平成18年度の活動計画、予算案のほか、2年後に迎える「いもづる会創立60周年」に向けての基本的な事業案が提示され、承認されました。学科の活性化に向けて、卒業生と現役学生の活発な交流が行われることが大きな目標として掲げられ、その事業が本年度から一部開始することとなり、その成果が2年後に期待されることです。懇親会は多数のご来賓、会員に出席頂き、学生幹事も含めて約90名の参加者により、盛大に行われました。

学科の近況

【新入生】

今年の4月、当学科では150名(男子101名、女子49名)の新入生を迎えました。新入生の相互交流や教職員、上級生とのコミュニケーションを図ることを目的とした恒例の新入生研修会は、4月22日(土)に鶴沼海岸で実施し、地引き綱、そこで採れたしらすなどを食材とし

た昼食会、ビンゴ大会、上級生による学生生活の過ごし方のアドバイスなどを行いました。また、あいにくの雨でアリーナでの開催となった5月27日(土)の「スポーツフェスタ2006」では2年ぶりの優勝を果たし、1年生はお揃いのTシャツに優勝を祈念したロゴの通りの優勝に、相互の団結、交流を一層深めることができました。



【多様な現地研修】

2004年度から始まった新カリキュラムが3年目に入り、1、2年生で基礎的な科目を修得した学生が、多様な現地研修を体験できる科目が今年度から開講されました。そのうち、インターンシップでは12名の学生が食品メーカーや流通業などで研修を行い、いきいきとした体験報告を行いました。また、海外フードシステム現地研修では8名の学生が8月27日から9月4日までタイを訪問し、アジアにおける食料生産から加工、流通、外食産業の実態を学んできました。

【人事】

本年4月に、当学科の教授を長く務め、また校友会の顧問であった来米速水先生がご逝去されました。また昨年11月には名誉会員の加藤譲先生がご逝去されました。ご冥福をお祈り致します。



一方、本年4月には竹下広宣先生(京都大学大学院地球環境学堂修了)が専任講師として着任されました。また、大矢祐治先生が教授に、稗貫峻先生が短期大学部の教授にそれぞれ昇格されました。9月末からは大石敦志先生が長期海外派遣研究員としてワシントン州立大学へ1年間留学されることになりました。学科教員の活性化が期待されます。

(磯田みゆき)

あすなろ会

◇森林資源科学科◇

連絡先 森林環境保全研究室
0466-84-3674 事務局長 阿部 和時
E-mail kazuab@brs.nihon-u.ac.jp

平成17年度あすなろ会 総会・懇親会を開催

平成17年10月15日(土)、新高輪プリンスホテル 国際館パミール 曙光において、総会及び懇親会が開催されました(隔年開催)。総会では事業経過・決算報告、事業計画・予算、役員の改選などが審議、承認されました。17・18年度役員は次の通りです。石垣逸郎先生のお努めされていた事務局長を、阿部和時先生が引き継ぐことになりました。

平成17・18年度あすなろ会役員

会長 赤塚敏男
副会長 金子賢治 宮島吉夫 佐藤恵子
監事 松崎和夫 佐藤貴喜
相談役 日暮富士雄
事務局長 阿部和時
会計担当 宮野則彦
会報担当 鍛代邦夫
常任理事 塩澤南海治 本江一郎
濱本和敏 石垣逸郎
井上公基 海老原満
後藤一雄

平成18年度あすなろ会 理事会を開催

平成18年度理事会を10月14日(土)、日本大学生物資源科学部10号館で開催いたします。あわせて、平成17年度農林水産祭天皇杯を受賞された田中惣次氏(18期) 間伐・間伐材利用コンクールにおいて林野庁長官賞を受賞された天竜森林組合・吉良達氏(45期)による講演会を開催する予定です。学生に向けて森林・林業をとりまく現状と将来について語っていただくことにしています。

学科の人事

本年4月に櫻井尚武教授(前森林総合研究所勤務) 松本こずえ副手(平成17年度森林資源科学科卒業)が着任されました。また、同じ4月に畠中聖奈副手が海洋資源科学科へ異動されました。さらに9月には、木平勇吉教授が退職されました。

演習林は今も

あすなろ会のみなさまであれば、実習やゼミで一度は水上演習林へおでかけのはずです。造林実習で植樹をしたり、測量実習、経理学、生態学、動物学等の調査実習、卒論研究、ゼミなど、様々な思い出がよみがえるのではないかと思います。このタレキ沢は演習林でも一番奥にあり、ご存知の方は少ないのかもしれませんが、今年、森林生態学実習で、サワグルミとジュウモンジダの植生を観察するためにこの沢に入ってみました。実は、この沢の入り口にこの季



水上演習林タレキ沢で植生の勉強をする
学生たち/森林生態学実習

節にしか姿を見せない植物が存在するのを知っていたので(何かは内緒です)それを探しに入りました。残念ながら目的の植物の姿はありませんでしたが、沢筋の典型的な植生を学ぶ目的は十分に果たすことができました。演習林は今も、森林資源科学の学生にとって、楽しいフィールドなのです。皆様もお近くをお通りの際には、お立ち寄りください。

皆様へ

あすなろ会々員のご活躍の様子を、お知らせください。自薦、他薦、どのような形でも、どのようなことでもお知らせいただければ幸いです。当誌をはじめ、会報記事として掲載させていただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

(鍛代邦夫)

桜 水 会

◇海洋生物資源科学科◇

連絡先 海洋資源育成環境学研究室
0466-84-3680 事務局長 杉田 治男
E-mail sugita@brs.nhon-u.ac.jp

平成 18 年度桜水会 総会・懇親会を開催

平成 18 年 7 月 1 日（土）午後 3 時より湘南キャンパス 10 号館において平成 18 年度理事会・代議員会および総会が開催され、平成 17 年度事業報告、決算報告、監査報告、平成 18 年度事業計画、予算報告などが行われました。さらに本会において、桜水会事務局長が吉原喜好教授から杉田治男教授に交代することが報告されました。午後 5 時より会場を食堂棟 3 階 N U ホールに移し、盛大に懇親会が開催されました。数年前より卒業生と準会員である在学生との交流を深める意味で、4 年次学生（40 名）も参加し、出席会員（46 名）は若い在学生と話を



平成 18 年度桜水会懇親会



懇親会にて日大節

する機会を得、また在学生は先輩方に進路相談などをする機会も得、両者の懇親が強く深められて大変好評でした。

専修コースが JABEE に 認定される

海洋生物資源科学科は 3 年次より「専修コース」および「広域教育コース」の 2 コースを設定しております。専修コースは、技術者教育の質的同等性を国際的に認め合うことを取り決めたワシントン協定（Washington Accord）の加盟機関・日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定基準に適していることが 2005 年度から認められました。従って、本コース修了者は、国際的にアメリカ、イギリス、オーストラリアなどの認定コース修了生と質の同等性が保証された学生として認められ、また、国家資格である「技術士」の一次試験が免除され、「修得技術者」になります。一方、広域教育コースでは従来通りの海洋生物資源科学の知識を基盤とし、選択できる科目を多くし

て他学科および他学部の開講科目も履修し、さらに広域の専門技術者になります。認定審査に際し、会員の皆様より多大なるご協力を得た事を記し、感謝申し上げますと共に、今後の継続審査へのご支援をお願い申し上げます。

人 事

平成 18 年 4 月 1 日付けで、森 司専任講師が助教授に、間野伸宏助手が専任講師に、それぞれ昇格されました。また、4 年間に亘り学科のために尽力いただいた蒲地美砂副手が本年 3 月 31 日をもって退職されました。後任として平成 16 年 3 月に本学科を卒業し、2 年間森林資源科学科で副手をされた畠中聖奈副手が着任されました。宮内浩二助手は日本大学海外派遣研究員（中期）として本年 3 月に半年間の予定でノルウェー王国トロムソ大学に出発されました。



畠中 聖奈 副手

本学部・学科の発展にご尽力いただいた元専任講師の小橋二夫先生が本年 1 月 30 日に、ならびに元教授の添田秀男先生が本年 7 月 26 日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（松宮政弘）

工 学 会

◇生物環境工学科◇

連絡先 環境土木施設工学科研究室
0466-84-3828 事務局長 青木 正雄
E-mail m--aok@brs.nhon-u.ac.jp

準会員との交流・情報交換を通じ て更なる活性化をめざす

平成 17 年 6 月の役員改選によって選出された、酒川和夫新会長を中心とする体制のもと、会の目的である“会員の親睦”と“母校の発展”を実現すべく、学科や準会員（学生）との密接な関係構築に向けた数々の協力・支援活動を展開しています。

〔総会・講演会・懇親会〕

平成 17 年 12 月 3 日（土）に開催しました総会では、これまでに加え講演会を実施しました。



講演内容に聞き入る準会員

この講演会では、本学科卒業生で専任講師の笹田勝寛先生による講演の他、外部からの講師として小松俊夫氏を迎え、ご自身が実務のなかで携わった経験をもとにした『ヤンバルの森から一開発と自然との共存をめざした実践例』と題しての講演をいただきました。生物環境工学にもなじみの深いテーマでの講演に、参加した準会員（学生）達には日頃の授業内容と実社会・仕事との接点を理解する機会となりました。また、酒井健夫学部長をはじめ、校友会各分科会長を迎えての懇親会においても準会員を招いた講演会の先駆の実施が話題となり、高い評価を得たことから今後も実施していくこととなりました。

〔準会員との交流・支援〕

これまでもスポーツフェスタにおける学科 T シャツや卒業時の記念品の贈呈等を実施してきました。本年はこれらに加え、「フレッシュマンセミナー（FS）」への協力支援を実現しました。FS は新入生を対象に「生物環境工学とは？」また「学科での勉学をいかした仕事とは？」などを学ぶ授業です。この一環として、平成 18 年 6 月 24 日に酒川会長を講師に「環境問題を考える」と題した講演がおこなわれました。会長自身が本学科卒業後にかかわられた仕事を踏まえての内容に、新入生は将来の就職について考える機会を得たようです。

今後も学科の先生方からのご協力を得ながら、本会が OBOG 会として支援できうる就職情報提供や学科振興に関する事業を展開していく所存です。

学科の動向

本学会は JABEE の地域環境工学プログラム・農業工学関連分野の認定継続を得ることができました。会員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

〔人事〕

平成 17 年 10 月、辻 厚志助教授が定年のため退職されました。長い間ご苦勞様でした。これからもご健勝で活躍されますことを願う次第であります。

本年 4 月、鈴木哲也先生が助手として環境土木施設工学科研究室に着任されました。先生は、熊本大学大学院自然科学研究科博士課程を修了され、農業土木にかかわる民間企業でのご活躍の経験もある方です。

また、本年 4 月、都甲洙先生が専任講師に昇格されました。両先生には、今後、学生指導・研究活動にご活躍をお願いしたいと思います。

〔事務局より〕

会員の皆さまで、住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記まで E-mail 又はお葉書にてご一報ください。

（藤沢直樹）



鈴木 哲也 助手

F T 会

◇食品科学工学科◇

連絡先 食品学研究室
0466-84-3981 事務局長 竹永 章生
E-mail takenaga@brs.nihon-u.ac.jp

F T 会活動報告

○F T 会理事会開催

F T 会理事会が平成 18 年 4 月 22 日午後 4 時より本学湘南校舎食品科学工学科会議室において行われました。理事会では平成 17 年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成 18 年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。

○平成 18 年度 F T 会総会開催

平成 18 年度 F T 会総会が平成 18 年 6 月 10 日午後 3 時より本学湘南校舎において行われました。総会は関村 具由会長（第 1 期生）の挨拶で開会し、平成 17 年度事業報告および会計収支決算が報告され、承認されました。さらに、平成 18 年度事業計画案および会計収支予算に関して報告が行われ、承認されました。



○準会員（在学生）への活動

平成 17 年 10 月に F T 会補助のもと、3 年生と教員との懇親会が盛大に行われました。また、平成 18 年 3 月 25 日には第 41 期学生の中から学業および人物優秀な学生へ贈られる F T 会長賞を授与いたしました。平成 18 年度は大貫美映さんと前田 彩さんが選ばれ、金一封が贈られました。最後に、平成 18 年 5 月 27 日に行われたスポーツフェスタでは参加した新入生へ飲料物を補助いたしました。なお、成績は優勝まであと一歩でありましたが、スポーツフェスタはたいへん盛り上がりしました。

学科の近況

○新カリキュラム

平成 18 年度から食品科学工学科のカリキュラムが変更となりました。現在の食品業界および研究分野に必要な新規科目を設定しました。1 年次には食品製造実習を設け、当学科の卒業生のご協力で工場見学（サガミハム株式会社）を実現し、ソーセージ製造から官能検査およびコンピュータ実習まで、生産管理に必要な知識と技術を得得できるようにしました。



○新任

高橋恭子専任講師が平成 18 年 4 月 1 日付で日本大学医学部医学科より着任されました。研究室は食品機能化学研究室（旧 1 研、旧食品製造学研究室）に所属されます。高橋先生は東京大学にて農学博士号を取得され、アレルギーの分子機構の解析を中心として、高親和性 IgE 受容体 b 鎖発現調節を研究されています。今後のご活躍が期待されます。

○帰国

古川壮一先生（食品微生物学研究室）が平成 18 年 4 月にアメリカ・ダートマス大学から帰国されました。今後の教育・研究活動でのご活躍が期待されます。

○訃報

平成 18 年 3 月 31 日付でご退職されました木村貞司教授（食品機能化学研究室、旧食品製造学研究室）が平成 18 年 9 月 8 日にご逝去されました。木村先生は学科設立当初から勤務され、現在の学科の基盤となる多くの場面にに関わり、学科発展および学生指導にご尽力頂きました。告別式は先生とのお別れを惜しむような雨の中、先生にお世話になった方々に見守れながら行われました。先生のご冥福を謹んでお祈り申し上げますとともに、これまでのご尽力に感謝申し上げます。

事務局より

会員の方々に、住所変更や改姓などがございましたら、ぜひ事務局までお知らせ下さい。

（阿部 申）

拓 友 会

◇国際地域開発学科◇

連絡先 国際経営研究室
0466-84-3457 事務局長 早川 治
E-mail osamu@brs.nihon-u.ac.jp

平成 18 年度
拓友会総会・懇親会開催

平成 18 年度拓友会総会が、平成 18 年 6 月 24 日に日本大学生物資源科学部本館 13 階で行われました。内田俊太郎会長の挨拶があり議事進行致しました。

第 1 議題の平成 17 年度事業報告案が早川事務局長から説明され、原案通り承認されました。第 2 議題である平成 17 年度決算報告と監査報告について、会計監査より適正に処理されている旨報告がなされ、慎重審議の結果、承認されました。

第 3 議題の平成 18 年度事業計画（案）が承認されました。

第 4 議題の平成 18 年度会計予算（案）が審議され、原案通り承認されました。

総会終了後、恒例となりました懇親会開催までの間、OB 並びに学生による報告会が行われました。今年度は、北野ゼミ 4 年生の山



OB 中島紀昌氏よりの報告

口千加さんから「韓国慶熙大学校留学報告」、OB 報告は平成 13 年卒業の中島紀昌さんから「ブータンにおける協力隊活動」の報告がありました。報告後予定時間をオーバーして OB 諸氏との熱心な質疑応答が交わされました。

「国際地域開発学科会議室」に会場を移して、懇親会をスタートしました。OB の中には数年前より湘南校舎を訪れ、あまりの変貌に「迷子になる所だった」との一言、OB の現役時代のエピソードを交えながら、学生達との懇親の輪がいくつもでき和気満々と会は続きました。

学科の動き

【教員の海外調査・研修】

JICA 筑波国際センターのキューバ小規模稲作技術コース研修員一行 9 名が 5 月 24 日に本学科を訪問し特別セミナーを開催したのを初め、8 月 19 日～ 9 月 5 日のガーナ海外研修には 1 ～ 3 年次の学生 15 名が参加、10 月 1 日より一ヶ月間滞在されたインドネシアのボゴール農科大学のヘルー先生による公開セミナーがあり、また 10 月 30 日～ 11 月 5 日にはタイで農業・農村の実態調査とアグリビジネスの展開状況を調査、2006 年 1 月にはメキシコ・オアハカ州で社会開発、経済振興、環境保全に取り組むローカル NGO の活動を調査、3 月に



実験農場内で椰子を飲みながら休憩

はフィリピン国ルソン島アルバイ州ギノバタン町における実験農場を拠点に学生による開発協力プロジェクト活動を行いました。このような多様な活動が、学生のモチベーションを高めています。

【新任・退任】

4 月から着任された新任

の市村嘉奈子副手は本学科 OG で、3 月に卒業したばかり。趣味はスポーツ、日大サマースクールでケンブリッジ大学に留学、英語が得意とのこと。今後のご活躍を期待しております。



市村嘉奈子 副手

平成 13 年から勤務されていた山口貴子副手が、3 月に退職されました。着任早々の東京からの引っ越しに続き、こちらでの学科事務を軌道に乗せていただきました。5 年間どうもありがとうございました。これからのご健勝をお祈りいたします。

【訃報】

緒方行廣先生逝去

去る 1 月 2 日、学科 OB でもあり、研究・学生指導に熱く取り組んでおられた緒方先生が惜しくも逝去されました。先生は昭和 49 年に卒業後、文理学部の大学院を経て 56 年から本学科に勤務され、開発社会学をはじめとする科目を担当、ゼミでも学生に大いに慕われました。緒方先生を失うことは計り知れない痛手であり、じつに残念でなりません。心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。



むつあい会

◇短期大学部農学科◇

連絡先 環境生態学研究室
0466-84-3747 事務局長 浅野 紘臣
E-mail asano@brs.nhon-u.ac.jp

平成 17 年度総会・むつあい会 50 周年記念式典開催



平成 17 年 10 月 22 日 (土) NUSC ホール (食堂棟) において北海道から九州まで津々浦々よりむつあい会会員 74 名と、各校校友会分会長、学部執行部、学科ゆかりの方々、学科教職員等招待者のご臨席を頂き、むつあい会 50 周年記念式典が盛大に開催されました。式典は、富澤寿樹実行委員長 (元会長) の挨拶に始まり、鈴木勝春現会長のむつあい会 50 年のあゆみ報告、功労者 (歴代の会長、事務局長) の表彰、楠元守元農学科長の瑞宝小授章受賞 (第 28 号既報) をお祝いし、記念品が会長より贈られました。

ひきつづき、来賓挨拶、来賓紹介が行われ、天野六江初代会長の乾杯の音頭で懇親の宴にうつりました。50 年という長い月日の過

ぎし日を語り合いながらひと時を過ごしました。なお、式典に先立ちまして平成 17 年度総会が第 1 会議室において開催されました。(左の写真は総会後の記念写真)

学科の近況

【在籍者数】

平成 18 年度は 47 名 (女子 19 名) が入学しました。2 年生 51 名 (女子 28 名) が在籍し、合計 98 名の準会員が在籍しています。

【卒業生の進路】

平成 18 年 3 月 25 日に、56 名 (54 期) が卒業して正会員になりました。卒業生の進路は、編入学 30 名 (生物資源科学部 23 名、他大 7 名)、大学校・専門学校 4 名、就職 7 名、自営 1 名、その他 14 名でした。卒業生の累積は、3,504 名となりました。

新学科「生物資源学科」誕生

平成 19 年度より農学科、生活環境学科を廃止し、「生物資源学科」が新設されます。新学科は、「自分の道を定める 2 年間」をモットーに定員 150 名です。社会のニーズを見据え、「豊かで、持続性のある社会」を構築するために欠かせない、食料の確保・供給、生物資源の生産、生命の科学、環境問題への対策、そして利用から流通までを横断する多彩なカリキュラムを設定することで、幅広い視野から多種多様な課題をとらえ、時代の動きに即応できる人材を育成します。また、生物資源科学部のどの学科にも編入学ができるように配慮したカリキュラムと

なっています。詳細は以下のホームページをご覧ください。

なお、農学科は平成 18 年度入学者が卒業するまで存続します。新学科の校友会については、これから関係者と相談して決めることになります。

事務局より

【原稿募集】

むつあい会々報では、広く会員から原稿を募集しています。学生時代の思い出や社会人になってからの体験など、何でも結構です。字数は 500～800 字 (顔写真等歓迎)、体裁は自由です。ふるってご応募ください。

【学科ホームページ】

農学科および研究室の紹介は、以下の URL でご覧いただけます。

<http://hp.brs.nhon-u.ac.jp/~tandai/index.html>



5 月 27 日 (土) スポーツフェスタ 2006 が開催されました。写真は 1 年生主体で臨んだジャンボ縄跳びです。昨年優勝しましたが、惜しくも連覇できず準優勝でした。

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

連絡先 短期大学部生活環境学科 住居学研究室
0466-84-3751 事務局長 飯尾 満
E-mail m.ito@brs.nhon-u.ac.jp

2005 年度校友会総会 懇親会の開催

2005 年度の総会・懇親会は、11 月 12 日 (土) 午後 5 時 30 分より渋谷にある「樞八」を借り切って開催されました。今回はハチ公にちなみ、てつろうさんによる 88 秒間の弾き語り、一円玉 888 枚、蜂蜜やハツ橋など「ハチ」に関わる賞品を揃えたビンゴ大会が好評でした。あちらこちらでおいしい料理に舌鼓を打ちながら近況報告や昔話に花を咲かせている光景が目につきました。参加者の皆さんそれぞれが楽しいひとときを過ごすことができましたようです。



学科の近況

生活環境学科の廃止と新学科の設立

平成元年に設立された生活環境学科ですが、生物資源科学部への編入希望者の増加に対応するため農学科と統合し、装いも新たに生物資源学科として生まれ変わることになりました。これにより定員 150 名という湘南キャンパスでは最大規模の学科となります。詳細は短期大学部のホームページをご覧ください。なお生活環境学科の廃止に伴い、校友会のこれからのあり方について考える必要があります。いずれ総会を開催し、皆様のご意見を頂戴したいと考えております。

卒業生

2005 年 3 月に 93 名が無事卒業しました。卒業後の進路は、生物資源科学部編入 36 名、他大学編入 7 名、大学・短大への新規入学、留学 2 名、専門学校 11 名、就職 14 名、その他はアルバイト・家事などでした。他大学への編入は日本大学国際関係学部、玉川大学、東京農業大学などがあげられます。



また就職については、日本大学をはじめとして、長野郵便局、はまぎん事務センター、三浦藤沢信用金庫、スズキ等様々な分野への進路実現を果たしています。

在学生

本年度の入試は倍率 1.2 倍と昨年度の 1.3 倍より率を若干落としたものの、4 月には 78 名の新入生が入学しました。生活環境学科としては 2 年生と合わせて 173 名の学生が在籍しています。

退職

飯塚 統教授 (環境科学) がこの三月をもって退職されました。先生は短期大学部の草創期から教壇に立たれ、多くの学生を指導されてこられました。短期大学部においては、まさに「生き字引」のような存在でいらっしやいました。とりわけ生活環境学科の設立に際しては、その豊富な知識とご経験を大いに発揮され、ご尽力なさいました。本年度は引き続き非常勤講師として教壇に立たれています。

事務局より

飯塚 統先生のご退職に伴い、新事務局長として生活環境学科長飯尾 満教授が就任されました。

今年の総会・懇親会は 11 月 18 日に横浜中華街の「聘珍楼」を会場として実施いたします。詳細は改めてご連絡差し上げることとなります。諸先生方も皆様にお会いすることを楽しみにしておりますので、ご友人とお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

会員の方で住所変更や改姓がございましたら、お手数ですが上記までメールかお葉書にてご一報ください。(蒲原義明)

応用生物科学科校友会

◇応用生物科学科◇

連絡先 蛋白質科学研究所
0466-84-3700 事務局 司馬 肇
E-mail chang@brs.nhon-u.ac.jp

平成 17 年度総会・懇親会を開催

平成 18 年 1 月 21 日(土)日本大学生物資源科学部湘南校舎において総会が開催されました。やむをえない事情により大谷会長と飯塚副会長が不在の総会となりました。まず、事務局長が校友会の現状と過去 3 年間の状況について報告し、承認されました。次に会計担当が会計収支決算の報告を行い、承認されました。次回の総会開催までの 3 年間の活動計画と会計収支予算については、事務局の原案が承認されました。総会後、来賓、学科の先生、在学生の出席を得て懇親会が行われました。



懇親会にて

応用生物科学科の近況

【在籍】：現在応用生物科学科の在籍学生数は 560 名(男子 343 名、女子 217 名)で、学年別では、4 年生 136 名、3 年生 139 名、2 年生 137 名、1 年生 148 名となっています。大学院に関しては、応用生命科学専攻に在籍する本学科の学生数は博士前期課程 30 名、博士後期課程 4 名となっています。

【退職】：副手の本多紘子さんは本年 3 月をもって退職されました。短い間ではありましたが、本当にお世話になりました。心より御礼申し上げます。今後のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。

【新任】：本年 4 月 1 日付で、本多さんの後任として、本学科の卒業生である岩垣志乃さんが副手として着任されました。

【海外留学】：苦名充先生(動物細胞学研究室)が本年 3 月にアメリカ合衆国(Mount Desert Island Biological Laboratory)より無事ご帰国されました。岩淵範之先生(分子微生物学研究室)は本年 3 月より 1 年間オランダのフローニンゲン大学に留学し、Henk J. Busshcer 教授のもとで研究を行います。

協賛活動

平成 18 年 7 月 21 日に在学生による研究室対抗バレーボール大会が本校校友会協賛のもと、体育館で盛大に行われました。決勝戦では核酸科学研究室チームが分子微生物学研究室チームを打ち破り、優勝しました。



バレーボール大会の集合写真

生体制御科学研究室チームは植物細胞学研究室チームに勝利し、3 位となりました。参加した学生は皆、笑顔で楽しい一日を過ごし、お互いに親睦を深めていました。

事務局より

以前、会員の皆様方にはお知らせというかたちで校友会の由来、目的と現状について説明をさせていただきました。今後、事務局ではアンケート調査を通じて、引き続き会員の皆様方が校友会に対して何を期待しているのか、どのような総会・懇親会を望んでいるのかなどについて把握していきたいと考えております。どうかご協力くださいますようお願い申し上げます。

最後に、住所変更、改姓、お問合せ等ございましたら、お手数ですが、事務局までご連絡ください。(司馬 肇)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3131 仙台市泉区七北田字町 3 番地
小野 隆事務所 支部長 小野 隆
TEL 022-372-4637 FAX 022-374-8844
E-mail takash@enax.net



7 月 24 日(月)江陽グランドホテルにて平成 18 年度(第 3 回)総会・懇親会を開催いたしました。茂澤 晃(農化・S26)校友会会長、遠藤文雄(医学部・S34)日本大学校友会宮城県支部長、小松文嗣(獣医・S39)校友会山形県支部長にご臨席いただき、鎌田幹事長(農化・S52)の司会で開会、小野支部長(食工・S41)より謝辞・開会挨拶し、ご来賓より母校、校友会の現状・将来像、校友子女入学試験等のご挨拶を頂きました。

総会は、小野支部長を議長に櫻田幹事・会計(拓植・S47)の議事説明で審議、採決し、提案議題はいずれも原案通り承認いただき、未加入校友への継続的な勧誘を確認し、また、仙台市内では距離的に参加が難しいという会員へ配慮して、今年は石巻市雄勝町で会員経営の民宿を会場に釣りをメインとした移動交流会を計画いたしました。

懇親会は、田代幹事(食工・S47)の司会で開会し、千葉副支部長(畜産・S43)の開会挨拶、武藤監事(林学・S28)の発声で乾杯し、和や

かな雰囲気の中懇談が進み茂澤会長のお話に国内 8 支部、台湾支部の校友会どうしの交流も活発な校友会活動として推進して行きたいとのことには、校友会では是非頭を取って積極的に進めたいとお願いしました。また、私どもからは、卒業生の把握については個人情報保護法というルールがあるということですが、何か適当な方法で校友情報を提供していただけるようお願いするなど時間の経過も忘れて和気藹々とした懇談が続いておりましたが、次回の再会を約束して全員で校歌を斉唱し、泉野三郎(水産・S35)さんの音頭で万歳三唱して盛会の中にお開きとなりました。(事務局 櫻田 昇)

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居が丘 4-55
日本大学山形高等学校 池田 卓郎
TEL 023-641-6631 FAX 023-641-6634
E-mail tkeda@ymg.hhs.nhon-u.ac.jp



平成 18 年度山形県支部総会が平成 18 年 2 月 18 日(土)に「プロが選ぶ日本のホテル旅館 100 選で総合第 3 位」となった、かみのやま温泉「にほんの宿 古窯」にて会員 31 名出席、来賓として本学部校友会より内田俊太郎副会長(拓友会会長)農芸化学科・隅田裕明助教授、宮城県支部・鎌田雅敬幹事長、日本大学山形高等学校・坂野忍校長、山形県工科大学校友会・小林高明支部長のご臨席を賜り開催された。

総会は、桜井麻男支部長の挨拶の後、議長に黒坂治(森林資源科学科)を選任し、提案された会務会計報告及び収支予算(案)役員改選等を審議、原案通り承認、可決された。新役員は、支部長小松文嗣(獣医学科)副支部長植松恒美(農芸化学)小林憲一(生物環境工学科)幹事長新聞博夫(獣医学科)監査佐藤龍男(生物環境工学科)村山正則(農芸化学科)事務局池田卓郎(農芸化学科)各学科から数名の幹事が新役員となり、また、顧問として桜井麻男(動物資源科)安達 勇(植物資源科)両氏が加わった。

総会終了後講演会に移り、今年は隅田裕明助教授から「我が国の低食料自給率が国土環境に及ぼす影響」と題しご講演があり、引き続き内田俊太郎副会長から「校友会の近況について」、坂野忍校長から「本中学・高校の教育方針等について」お話がありました。

懇親会は、小松文嗣新支部長の挨拶、来賓の山形県工科大学校友会・小林高明支部長、宮城県支部・鎌田雅敬幹事長から各支部の活動状況についてご紹介があり、安達勇新顧問の乾杯の音頭で開演し、学科毎の自己の近況報告等もあり、時間の経過と共に大いに盛り上がりしました。終わりに日本大学校歌を斉唱し、次回の再会を誓い盛会のうちに終了した。

(幹事長 新聞博夫)

神奈川県支部生物資源科学(農獣医)部会の近況

連絡先 〒252-8510 神奈川県藤沢市亀井野 1866
生物資源科学部(農獣医)部会事務局 世良田 和寛
TEL 0466-84-3691 FAX 0466-80-1106
E-mail serata@brs.nhon-u.ac.jp

平成 18 年度総会・懇親会が 17 年 9 月 30 日(金)18 時より、クランドホテル湘南にて招待者 8 名を含み 36 名の出席で挙行されました。総会は高橋秀行副会長が開会のことばを述べ



られたのち、秋元美治会長が挨拶され、議事は滞りなく終わり、高橋善男副会長が閉会のことばで終了しました。

懇親会は定刻の 19 時から、佐々木透副会長の司会で開会され、開会ことばを川井富寿副会長、会長挨拶後に日本大学校友会神奈川県支部長代理門倉正憲氏、日本大学生物資源科学部校友会会長茂澤泉氏、日本大学生物資源科学部学部長代理徳山龍明次長より祝辞を頂き、前会長高坂鉄雄氏の乾杯で宴が催された。アトラクションでは高橋善男氏奥様（樋渡蓬水さん）による『五条橋』の薩摩琵琶が演奏された。さらに恒例のビンゴゲームが催され、最年長の元日本大学常務理事山澤新吾氏の万歳、長尾壮七先生の閉会のことばで盛大に懇親会は終了致しました。

この神奈川県に生物資源科学部が存在しますので、大学を盛り立て学園の発展に寄与するよう努力が必要と考えます。神奈川県に在住する本会員は今後の会のあり方が問われています。

先輩・同期・後輩の情報交換の場として、また、会が永続するよう役員一同は新しい世代に引継ができるように検討しています。よって、多くの会員からのご意見とご指導を承りたくご協力の程お願いします。

(世良田和寛)

山梨県支部の近況

連絡先

〒405-0044 山梨市市川 1403
支部長 古屋 勝美
TEL・FAX 0553-22-5183
E-mail furukathu1211@fuits.jp

◆定期総会を開催する。(創立 20 周年記念)

平成 17 年 10 月 22 日(土)石和温泉ホテル糸柳において、県支部総会並びに懇親会を開催しました。学部校友会より来賓として内田拓友会会長、石川代表幹事、谷地代表幹事の各氏のご臨席をいただき、県内各地から会員 26 名の出席となりました。

定期総会は、活動経過と会計報告は原案通り承認されました。役員改選は、支部長(古屋氏、35 年卒)副支部長(越石氏、51 年卒)事務局長(保坂氏、40 年卒)代表監事(林氏、35 年卒)相談役(小越氏、27 年卒)等新しく 13 名の方が就任しました。今まで支部活動にご尽力いただいた 6 名の方が一身上の都合により退任され、小越・丹沢両氏に対し学部校友会会長より感謝状と記念品の贈呈がありました。来賓各位から祝辞と躍進する大学の近況や校友会の活動報告をいただいて閉会となりました。



引き続き、新支部長の挨拶と乾杯のご発声により懇親会が開催されました。初参加の会員もいましたが各自のスピーチやカラオケと進み、時間を忘れ多に盛り上がりしました。

最後に、全員で大学校歌を声高らかに歌い、今回の再会を約束して散会しました。

◆新執行部スタートする。

平成 18 年 1 月 21 日(土)石和温泉ホテル慶山において、小越相談役のご出席をいただき、執行部・事務局会議を開催しました。会議内容は、引継ぎの確認と平成 18 年度の活動方針及び収支予算、支部規約の一部改定について協議しました。終了後、親睦を兼ね懇親会を開きました。

◆平成 18 年度学部校友会総会へ出席して思うこと・・・

平成 18 年 7 月 8 日(土)東京赤坂プリンスホテルにて開催されました総会と懇親会へ出席しました。事業・会計報告や新年度事業計画・予算案が慎重に審議され、懇親会は多数の方々とお話ができて、絆を深め有意義な時を過ごすことができました。

特に、地方支部からの要望として、大学発展のためには地方の拠点活動が重要であります。しかしながら県支部は、現在 9 支部しか結成されていない寂しい現状でありますので、地方支部への積極的な支援活動を期待するとともに、支部結成に向かって関係者各位のご奮起をお願いしたいところです。(古屋 記)

高知県支部の近況

連絡先

〒780-0084 高知市南御座 9-19
事務局 前川 卓也
TEL 088-880-0538
E-mail m.aekawa@mb.inforioma.or.jp

去る 8 月 19 日(土)高知市の料亭「葉山」において、第 18 回高知県支部が開催されました。ご来賓の茂澤本部校友会会長、学部次長徳山龍明教授、特別会員の高坂鉄雄先生を県内各地から集まった校友が囲み 18 名の出席者となりました。

総会は森田支部会長挨拶で開会し、続いて



茂澤会長から、再任から 1 年を振り返っての校友会活動と、引き続き大学と学生をサポートし校友会活動を改革していく決意をお話ししていただきました。

次に徳山教授からは、少子化等の影響で従来の学生を選ぶ大学から、学生に選ばれる大学に変化している現状を踏まえ、学部の現状と魅力ある大学であり続けるための取り組みについてお話いただきました。

高坂先生からは高知県支部創設の母体となつた会高知県支部の思い出や現在に至るまでのかわりと先生の現況をユーモアたっぷりにお話いただきました。

引き続き議事に入り、平成 17 年度事業および収支決算報告、平成 18 年度活動方針および予算はすべて原案通り承認されました。

その他、当支部では毎年名簿を作成しておりますが転勤・転居により連絡が取れなくなっている会員も相当数存在していること、個人情報保護法施行にともない、名簿の取り扱いも慎重に行わなければならないことが話題となりました。

続いて高知名物の皿鉢料理を囲み、長崎支部相談役の乾杯で懇親会となりました。いつもながら飲み放題システムにしておいしかったと感じる事務局でした。

最後に森田会長の音頭で校歌を斉唱し、日本大学にエールを送ったのち、茂澤会長から高知県支部に対し温かいエールをいただいて総会はお開きとなりました。(事務局 前川)

校 友 だ よ り

平成 14 年度 大学院生物資源生産科学専攻
博士前期課程修了 長島 賢司

農林水産省に入省し、今年で 4 年目になりました。現在は統計部経営・構造統計課に所属し、農業経営統計調査(肥育牛生産費)の作成に携わっています。

この調査は肥育牛(肉用として生産される和牛、国産牛のこと)を生産するときの農家コストを調査するもので、この結果を基に行政価格が算出され、牛肉市場における需給調整に使われています。私たちの家計に影響する調査なので、1 円単位で高精度の結果が求められ、直接牛に投下する飼料費や光熱費の他、家族労働費や使用した建物、農機具の減価償却費など目に見えない費用も把握し、作成する調査表の項目数は実に 1,200 にもなります。全国の肉用牛農家の中から無作為に抽出した農家を調査しますが、私の仕事は実査部門である地方農政局や農政事務所への調査方法の指示、できあがった調査表の審査、照会、そして全国の平均値を集計して公表するという業務です。実際に農家に赴いて調査をするということがないので、数値の妥当性を判断するためには農業、農学の知識が当然必要で、さらに費用を細かく分類するために簿記の知識も必要です。



学生時代に学んだことがかなり役に立っていると感じます。私たちはこうして集計した結果を毎年 1 回公表しています。統計書はそれだけを見て面白いものではありませんが、累年的にみることで様々な変化を感じることができ、新たな発見をすることもあります。畜産業は他の農業と比べて大規模化、機械化が進み、先進的だと言われているのですが、それが生産物のコストにどのように影響してきたのか、また、近年の BSE 問題や原油価格の高騰はコストに影響するのか、調査結果の概要版が農水省の HP に掲載されていますので、興味のある方はご覧ください。

学生生活を終えて 10 年目にして思うこと・・・

平成 7 年 農業工学科卒業

平成 9 年 大学院農学研究科農業工学専攻
博士前期課程修了 浦上 健司

私は株式会社インテージという市場調査会社の、農山村を中心とした地域での調査や計画策定を手がけるセクションに在籍し、今年で入社 9 年目になります。「ん？修了年次と合わない・・・」。実は、修了後の 1 年間は、現在とは異なる会社で地域計画系のアルバイトをしていました。しかし、業務のサブ担当者も任せられ、出張をこなすこともありました。

このように、一風変わった社会人生活をスタートした私。学生時代も少々変わっていました。
[次ページへ]

